

1人1台端末の活用による実践事例

(小・中学校)

学校名	和気町立佐伯小学校	実践者名	角田 直也
教科等	総合的な学習の時間	学年	第6年生
		授業活用段階 (岡山県版)	Stage 3
育成したい 資質・能力	見通しをもって計画し、友達と協力して、主体的に学校・地域を巻き込んで実践する力を育てる。		
単元・内容等	「輝ける佐伯小学校プロジェクト」 ～山田小プロジェクト・イベントプロジェクト～		
児童生徒の実態 (端末活用頻度等)	率先して家庭で個人のタブレット端末を使用している児童が数名いる。1人1台の端末が貸与されたことで、初めてタブレット端末を使う児童が過半数を超える。		
活用の概要（使用アプリ名を含む）			
【山田小プロジェクトについて】 統合し廃校となった旧山田小学校の校舎の再利用に向けて地域と一体になり活動している。 【単元の流れ】 (1) 地域の課題を把握する。 ・インターネットを活用し、休校や廃校した学校の活用方法等を調べる。 ・Formsで卒業生や地域の人対象のアンケートを実施する。 ・地域の方へのインタビューを電話で行う。 (2) 和気町や教育委員会等に提案する資料を作成する。 ・校舎の活用方法等をスライドにまとめる。 ・表やグラフ、写真等のレイアウトを工夫し、根拠を示すようにする。 (3) 地域のイベントで、まとめたことを発表する。		 地域の人へインタビュー  根拠を示し、分かりやすい資料をつくる。 	
実践者の手ごたえ		児童生徒の振り返りや反応等	
教師は、児童自ら探究的に学習が進められるよう、できるだけ指示を控え、児童が主体的に学習を進めるよう支援を行った。学習活動全体を通して、国語の作文や言葉遣い、算数の表の集計等の教科横断的な学びを実現することができた。		(児童の様子) 最初は見通しがもてず活動に消極的な児童が多かったが、活動が続けていく中で「自分達が地域の大人を動かしている。」と実感して主体的に学ぶ児童が増加した。自主的にプロジェクトに関連した調べ学習を家庭で進める児童も増加した。	